10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・毎年3月は、資金需要が最大になる月であるため資金繰りに苦勞する。しかし、今年は店頭売上が前年同月を下回ったものの、外売売上が好調であり、今月下旬には資金繰りのめどがつくほどの入金があった。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街に新しい大きな広場が完成し、週末ごとにイベントが行われている。そして、既存の公園と連動したイベントを開催することによって、多数の客が商店街を訪れ、街中を回遊している。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症発生以前の状態に戻り、卒業や送別の集まりが多かった。送別の贈物商材も売行きが良かった。ただし、中には会社の人員削減のための送別もあるとみられる。
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・物価高騰による商品価格の上昇にも消費者が慣れてきている。堅実になり無駄な消費は控えているが、必要な商品を必要なときに購入している。コンビニの売上は、外出機会が増えていて順調に推移した。
	○	コンビニ（総務）	来客数の動き	・売上前年比、来客数前年比共に3か月前より改善している。
	○	家電量販店（店員）	来客数の動き	・新生活準備での来客数、販売量共に増えている。
	○	家電量販店（副店長）	単価の動き	・来客数の伸びはないものの、客単価が前年比で、エアコン127%、冷蔵庫114%、パソコン110%と大きく伸びている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・季節の変わり目で、暖かい日は、やや客数が増加する。行事の多い時期でもあるため、少しではあるが、テーブルの埋まる日が多くなっている。しかし、客単価は以前ほど回復しておらず、食べ放題等を行っている他店よりも客単価は低い傾向である。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ダイレクトインバウンドが引き続き好調であるとともに、国内の卒業旅行のような若年層の来訪も増加しており、相乗効果で集客の上乗せができています。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業、入学シーズンで客の動きが活発になっている。
	□	商店街（常務理事）	販売量の動き	・港湾地区に本年2月末にオープンした1万人規模のアリーナで毎週末大型イベントが開催されており、週末になるとこのアリーナ来場者が商店街にも足を延ばし、通行量が前年度に比べて2～3割増えて、活気につながっている。ただし、観光需要関連、宿泊以外の業態への恩恵は極めて限られている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・インバウンド拡大の影響で、外国人の宿泊等は増加しているとみられる。しかし、消費活動は原料価格高騰等での値上げが相次いでおり、伸び悩んでいる。商品の流通も運転手不足に加え、労働環境問題で多少停滞している。良くなっている業種と悪くなっている業種の区別が明確に出ている。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・来客数や受注量は、3か月前と比較して大きな変化はないが、年度末としては、例年と比較してやや少ない。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・販売点数の落ち込みがみられず変化はない。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・年明け以降、傾向は大きく変わっていない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の販売単価の上昇で来客数や買上点数の伸びは鈍いものの、売上に関しては上昇傾向で推移している。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・春闘など賃金改定の時期ではあるが、米を筆頭に物価上昇幅の方が大きく、見通しとしては厳しい。
□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・来客数、客単価共に前年比を超えている状況が継続していることから、売上は好調である。しかし、それを上回る経費増加が、利益を大きく圧迫している。	

	□	スーパー（統括担当）	単価の動き	・物価高が終息しない。米の値段も、備蓄米の放出で下落することを期待したが、下落する気配もない。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・物価上昇により客単価の上昇並びに売上増加につながっているが、来客数は減少が続いている。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・米、小麦粉、肉などの原材料価格の高騰が続いており、天井がみえない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・単品の買上が多く、客単価が前年を5%以上下回っており、依然として景気は低迷している。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・受注動向に大きな変化はない。
	□	その他小売 [ショッピングセンター]（館長）	来客数の動き	・来客数の動きは、前月同様堅調に推移しているが、客単価がやや下落している。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・3月になり暖かくなったことで、人の動きが多少活発になっていく。加えて、インバウンドの入込とともに、お遍路シーズンも始まったことから、以前より良くなっている。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・ここ数か月、来場者数に変化がなく高水準を維持している。
	□	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・販売量は、大きな変動はなく、堅調に推移している。
	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業シーズンで、着付けセットの依頼が多かった。
	□	設計事務所（所長）	それ以外	・観光業については非常に好調であるが、それ以外の業種については話題は多くても、実際の景気は余り良くない。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・地方創生といった期待の政策について、議会で議論が十分になされておらず、事業者として手の打ちようがない。
	▲	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・インバウンドは好調だが、国内は原材料価格やエネルギー価格の高騰により、消費意欲が減退している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は春物の衣料が出始める時期のため、温暖な日が続けば、ある程度景気が良いのが本来の姿であった。しかし、天候も温暖であるとともに外的要因にも大きな変化がみられない状況にもかかわらず、商品単価が高いことにより、売上が十分に伸びていない。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・販売停止車両が多く販売が苦戦している。また、部品メーカーの事故で出荷停止となる車種も出てきた。
	▲	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・エネルギーや食品の値上がりが目立ち、消費者マインドが低下している。大手企業の賃上げ報道は、地方の中小企業にとってはうらやましい限りである。
	×	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・売上は低迷したままである。物価高の影響なのか、外食控えて飲食店への納品は低迷し、家庭用の納品も減少している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・客の来店頻度も減り、来店しても販売量が増加せず、客単価も上昇しない。ガソリン代や食費が上昇し続けており、衣料品まで消費が回らない。消費が持ち直している気配はない。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・月曜日から木曜日までと金曜日や土曜日の客の動向は全く異なっており、金曜日と土曜日に客が集中しており、タクシーが不足している状況が多くある。平日でも、前もっての予約が必要である。しかし、そのような状況でも、3か月前と比較して悪化している。
企業動向関連	◎	*	*	*
(四国)	○	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・春になり、運輸業界の動きが活発になってきた。
	○	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・人手不足に伴い、採用関連広告、旅行やホテル等の観光関連広告が多少増加している。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売販売は、主要15野菜中9品目が前年同期を上回る単価となり、前年11月から続く高値基調が幾分解消されている。ただし、主要野菜は消費量の多い品目を対象としており、野菜全体の平均単価は下落しているものの、消費者目線では依然として高い水準とみられる。

	□	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・小売店の形態や地域性などにより、販売額に差があるものの、全体的に前年並みである。しかし、3月の中旬から急速に春めいてきた関係で、月末に向けて受注が増加している。インバウンド需要は地方店にも及び、全国的に景気は上向いている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船関連の受注量、販売量は引き続き安定しているが、産業機械関連は、依然として低迷している。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・日本では、大規模工事が実施、計画されている。一方で、慢性的なオペレーター不足や労働時間上限規制の影響見極めの動きもあり、需要は減少している。海外では、北米やアジアの需要は横ばい、オセアニアやアフリカで需要が減少、中東や中南米等の需要は増加し、全体としては増加している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事、住宅販売共に、動きが悪い。特に住宅は資材価格が高値で推移し、金利の上昇を受けて買い控えがある。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・来年度の予算次第である。
	□	通信会社（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今年度の販売計画が未達になるなど、景気に変動はみられない。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・前月と比べて、大きな変化や変動はみられない。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・住宅着工の減少に伴い受注量が低調に推移している。今後この傾向は継続していくとみられる。
	▲	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・物価上昇による買い控えの傾向が顕著に出ている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光等の再生可能エネルギーの仕事をしている。居住地域では、自動車関連の企業が多く存在しているが、関税のショックでかなり動きが悪く、地域全体で景気が悪くなっている。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・業績が好調な企業が減少している。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(四国)	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・年度末にかけて求職者数が少し動き始めてきたが、以前と比べて動きの鈍さは変わらない。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内企業での採用者数など状況は大きく変わらず、横ばいとなっている。
	□	職業安定所（求人開発）	それ以外	・新規求人倍率について、管轄地域に限定すると、3か月前と比べればやや低い。しかし、県内全域では総じて余り変わらない。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人の動きに大きな変化はみられない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・観光庁の広報予算は比較的安定しているが、民間は依然として、レギュラー広告への支出を抑制する傾向にあり、一時的にしか使用しなくなっている。
	×	—	—	—